

高知県安芸県税事務所長賞

「税金について」

室戸市立吉良川中学校 三年

仙頭 明奈

税金と一言で言っても、その種類はたくさんあります。その中でも一番身近にあるものといえば、消費税だと思います。消費税の5%のうち、4%は国へ、1%は地方へ行くということを初めて知りました。最近では消費税を上げるという話があったりしますが、できればやめてほしいです。

税金は、身の回りの私たちの生活で大いに役立っています。例えば、一番身近なものに私たちが普段使っている教科書があります。税金が無くなると、私たちは義務教育を受けることができなくなってしまいます。他にも公共施設や道路、警察費や福祉関係など、あげてみればきりがないほどのことが税金によってまかなわれています。もし、税金がなかったら日常生活になくてはならないゴミの収集、福祉に関する様々な制度、学費、地域の中の公共施設などの全てがなくなります。こう考えてみると、税金は私たちの生活に必要な不可欠なものです。

ですが、その反面、税金の無駄遣いの問題があるようです。テレビでも何度か耳にしたことがあります。国民が平等に払っている大切なお金なので、きちんと計画を立てて使ってほしいです。

近年では、「脱税」の問題もあります。憲法でも税金を納める義務というのが定められています。納税者が減少している中で、脱税している人も出てきたとなると、ますます生活が心配です。脱税などという悪い事は絶対にしてほしくないです。

今日、日本は世界で一番の長寿国である一方、生まれてくる子供の数が減っている状況の中で、高齢社会が急速に進んでいます。

2000年には、働き手約4人で1人のお年寄りを支えていましたが、2010年には3人で1人のお年寄りを、更に2020年には2人で1人のお年寄りを支えるようになると予想されているそうです。私が税金を納めるころには、今よりももっと税金の量が増えるということです。このような少子高齢化社会で、お年寄りが安心していける社会というのは、医療や年金などの社会保障の充実が必要です。それを支えるのは私たちの適正な税負担で、より豊かな社会維持するために、国民としての責任を大いに果たしていかなければなりません。

私が年金をもらうようになるころには、何歳からになっているのか、いくらになっているのかとても気になります。もしかしたら80歳からになっているかもしれません。そういう点から考えてみると、これから私たちがしなければならないことは、子供の数を増やすことなのかなと思います。

私は、今まで「税」というものに全く関心がありませんでした。しかし、今メディアで税のことを取り上げられている中で、これから納税者となる私たちがもっと関心を持たなければならないのではないのでしょうか。